

新

わたなべ 渡辺ふじお

富士雄

Vol. 3
NEW KOMIITO

A young generation



いたんだね、こんな人

Kindness

やさしい街

ディーゼル規制や低公害車の導入など、大気汚染対策を推進し人に優しい環境を守ります。

Education

伸びやか教育

スクールカウンセラー制度の拡充で、いじめや不登校対策等、教育問題に全力、区の奨学金の創設を目指します。

IT

情報技術

公明党の強い要望で実現したIT入門講習会の継続を。ITを活用して、新時代の区民サービスに取り組みます。

Safe

安全な街

杉並区の各駅で癒しの音楽を流し、犯罪発生率の減少を図るとともに、地域のオアシスを提供します。

Work

働く場所

若者の働き口を斡旋するヤングジョブスポットの充実と、区内の就職情報を区の施設で閲覧できるスポットを設置。

Home

住宅環境

統廃合を行った学校跡地を含めて、公営住宅の確保に取り組み、若者の住みやすい住環境対策を推進します。

Emotion

感動!

音楽コンサートや演劇など、本物の芸術に低価格でふれることができる、感動広がる杉並を築いて参ります。

渡辺ふじお物語 3

第4章 「課長昇進」

ふじおは、息子の病魔など過酷な運命と戦いながら、職場での信頼を得る地道な戦いを続けてきていた。しかし90年代以降のバブル崩壊、不況の嵐は、ふじおも無縁ではいられなかった。

家族のために安定した生活を得たいと入社した会社は、親会社の業績不振に伴うリストラで一変した。仕事にも会社にも夢が持てず、社員が一人また一人と辞めていった。一緒に働いてきた仲間である。しかも、状況は日に日に厳しさを増していた。

そんな時、ふじおに思いもかけず他社から引き抜きの声がかかった。悪い話ではない。ふじおは即答を避けた。2年前病気で亡くなった上司が口癖のように語っていた言葉が脳裏にこびりついていて。

「俺たちの力で、会社を上場しよう。みんなが誇りを持って仕事ができる会社に、いつか必ず。ただ、俺の時代には難しいかもしれない。だからナベちゃん、頼むよ。」

ふじおのことを一番理解し、期待し、育ててくれた上司であった。ふじおはその人との約束だけは破れず、転職を思いとどまった。

彼にとつて大切なのは地位や名譽、お金だけではなかった。確かに会社がどうなるか不安だった。でも、ふじおにはその亡くなった上司との

約束があった。そして、多くの友人、先輩後輩がいた。怖いものなどなかった。「今の会社は全てを注ぎ込もう」と決意し、がむしゃらに働いた。気がつくとも、周りの信頼を勝ち取り、会社の重要なプロジェクトを任せられ、課長に昇進していた。

第5章 「無縁の世界」

ふじおは、息子の病氣や仕事の苦境などで悪戦苦闘しながら、それらを乗り越え、他人の痛みがわかる、頼れる存在として多くの人々から信頼を勝ち取り、友情の輪を大きく広げていた。日々刻々と推移する状況が新たな難問を投げかけてはきたが、強い生命力で希望に燃え、明るく前進していた。何よりもそれを支える家族の深い絆がそこにはあった。

そんなある日、公明党関係者から、「ぜひ、党公認で政治の道を」という要請があった。「……」。ふじおは呆然となった。自分が政治家になるなどは考えたことすらない。政治など未知の領域であり、無縁の世界だった。もとより、自分がそのような大任を果たせるとも思えなかった。ふじおは丁寧に断ったが、相手も熟慮吟味の末の人選であり、簡単には引き下がらなかつた。とはいえ、断れば断るほど、かえってふじおの悩みは深まっていった。

裏面へつづく